

熊本の観光・レジャーに関するアンケート(2025年6月調査)

「熊本の観光・レジャーに関するアンケート(2025年6月調査)」を実施した結果を公表いたします。(発送数:279、回収数:105、回収率:37.6%、回収期間:2025年6月24日～6月30日)本アンケートは、県内の観光・レジャーの動向をいち早く捉えるために実施しております。

1. 熊本県観光DI まとめ

	現状判断DI (4月～6月)	見通しDI (7月～9月)
合計(N=105)	53.8	54.5
行政・協会(N=41)	59.1	62.8
宿泊施設(N=27)	44.4	38.9
集客施設(N=7)	64.3	60.7
飲食・物販(N=4)	56.3	56.3
交通・代理店(N=14)	46.4	48.2
その他(N=12)	58.3	64.6

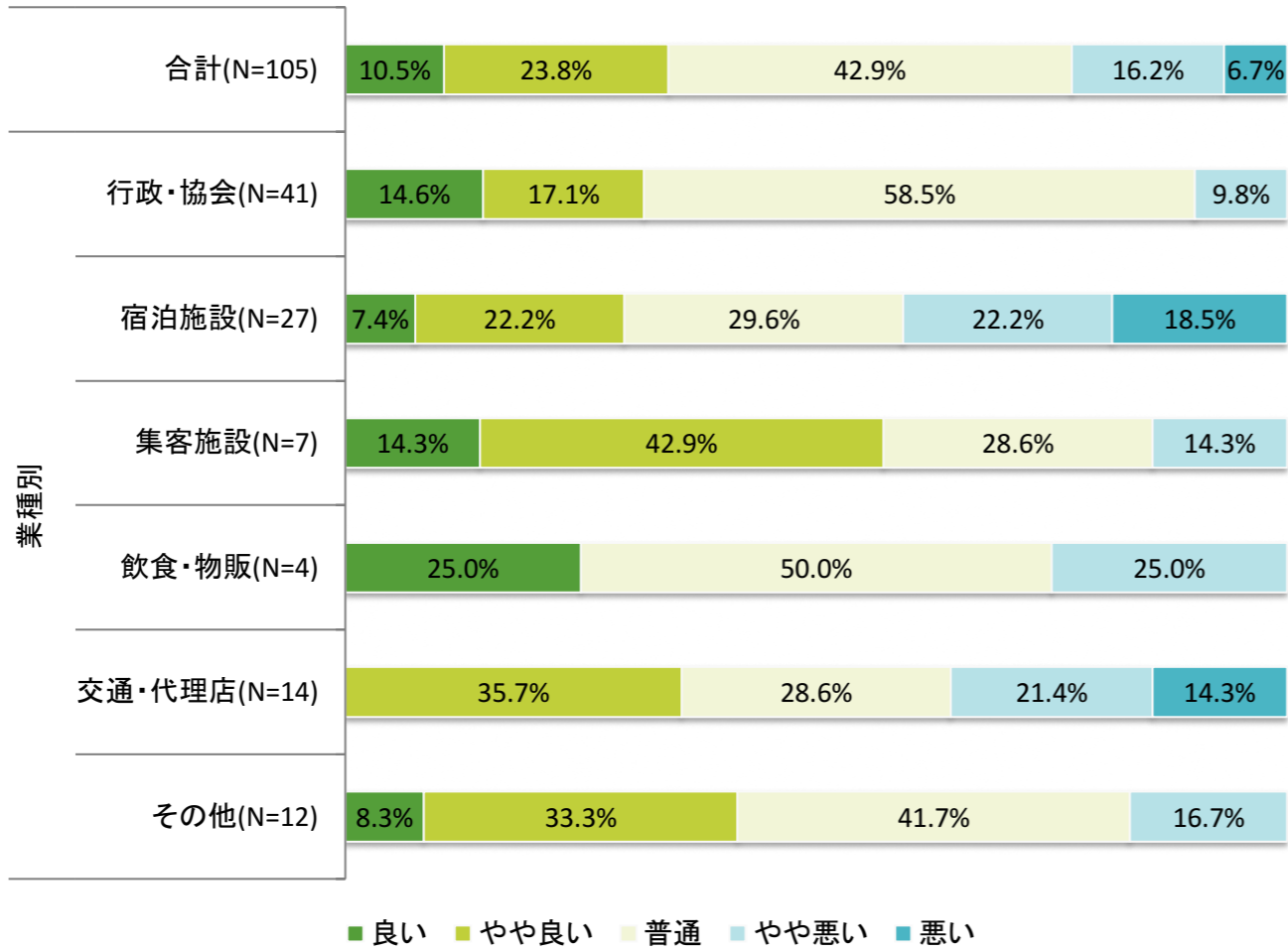
4～6月の熊本の現状判断DIは53.8となり、前期(53.7)から0.1pt上昇した。業種別にみると、行政・協会、集客施設、飲食・物販、その他の4業種で景況判断の節目である50を上回っていた。

前期に引き続き、インバウンド需要の増加を中心にコロナ禍からの回復を挙げるコメントが多くみられる。一方、物価高騰などを背景にゴールデンウィーク以降の観光客の動きが想定を下回っているというコメントも散見され、前期から現状判断DIが低下する結果となった。

見通しDIは54.5となり、前回(58.4)から3.9pt低下した。行政・協会、集客施設、飲食・物販、その他の4業種でDIは50以上であった。

見通しを良くなると判断する要因として、円安によるインバウンド需要増加の継続、悪くなると判断する要因としては物価高騰に伴う国内客の消費マインド低下など経済情勢に関するもののほか、7月に大災害がおこるといふ噂から香港、台湾からのインバウンド客が減少傾向にあるといったコメントが見られた。

2. 4～6月期の動向、景況感



4～6月の景況感は、全体では「良い」と「やや良い」の合計が34.3%、「悪い」と「やや悪い」の合計は22.9%となった。

業種別にみると、集客施設で「良い」と「やや良い」の割合が過半数を占める。

【コメントの抜粋】

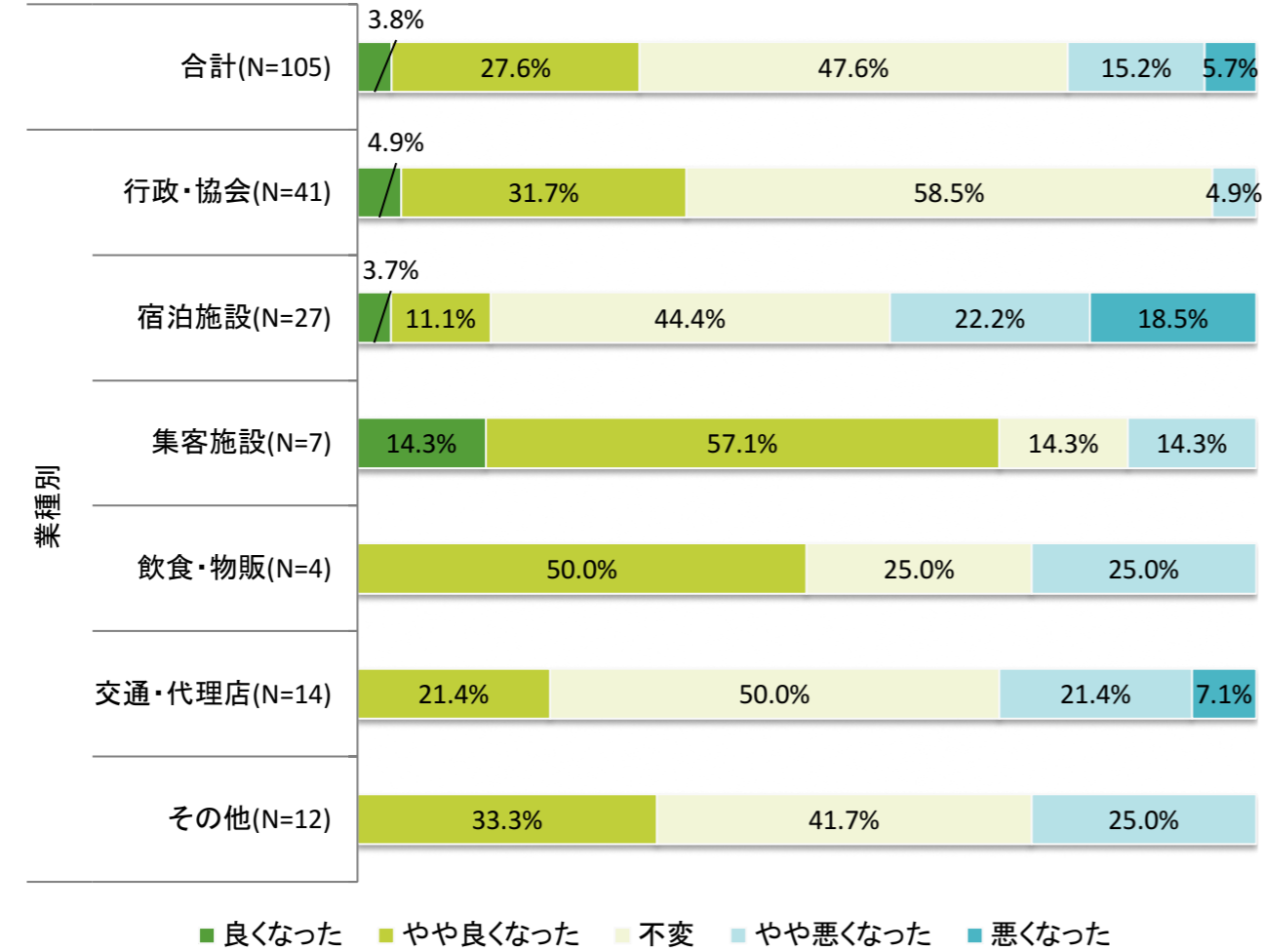
●良い
国内観光客は減っているがインバウンドがそれ以上に増えている為(集客施設)

●やや良い
物産館などの施設のリニューアルオープンに伴い、宣伝効果等もあり、来館者数が増えたため(行政・協会)
4月と6月に大型長期案件の特需あり、インバウンド客の増加、ゴールデンウィークの期間中の好調(宿泊施設)

●普通
TSMC関連の特需を除くと、例年通りオフシーズンです。(交通・代理店)
インバウンドは好調 国内教育旅行は例年並み 国内旅行はやや不調(その他)

●やや悪い・悪い
学会関係が少なくなっているため(飲食・物販)
とにかく宿泊者数が伸びない。各月、対2019年比4月約13%、5月約23%、6月約45%それぞれ減となっている。(宿泊施設)

3. 1～3月期に比べた4～6月の動向、景況感



1～3月期に比べた4～6月の動向・景況感は、全体では「良くなった」と「やや良くなった」の合計が31.4%、「悪くなった」と「やや悪くなった」の合計は全体で20.9%となり、前者の比率が高い結果となった。

業種別にみると、集客施設で「良くなった」と「やや良くなった」の合計が半数を占める。

【コメントの抜粋】

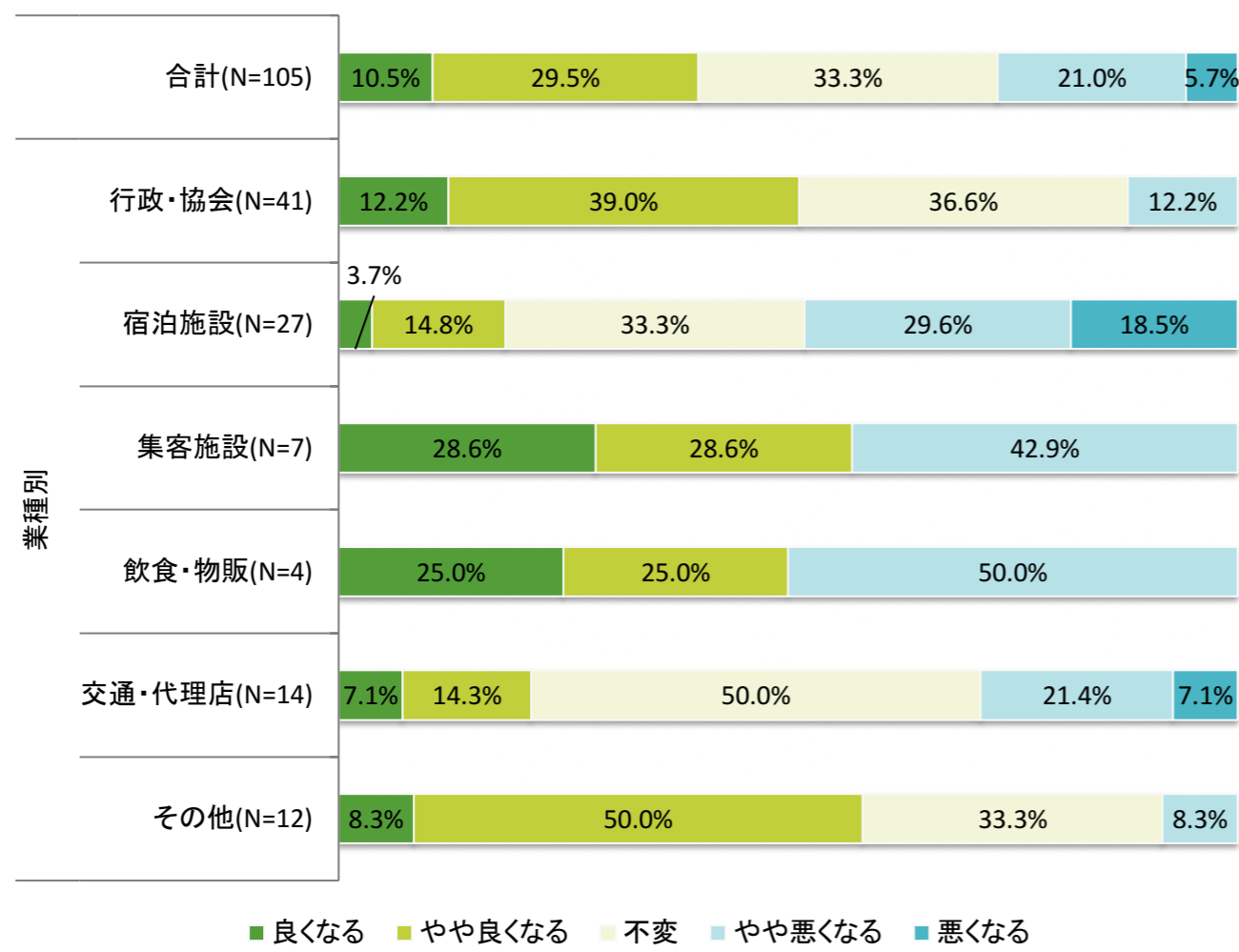
●良くなった
お土産品の伸びは低調だが飲食の伸びが順調に推移している為。(集客施設)

●やや良くなった
飲食店や宿泊施設など予約が取りにくいこともあり、消費動向の向上を感じるため(行政・協会)
この時期に来客する客層の変化(国内旅行客の増加)(飲食・物販)

●不変
来館者数の推移は1～3月と変わらないため(交通・代理店)

●やや悪くなった・悪くなった
1～3月は海外のお客様が多かったが4～6月には海外のお客様も減少(宿泊施設)
昨年と比べると、国際線の減便なども影響して、今年4～6月の動向、景況感はやや悪い(その他)

4. 今後、9月までの業況の見通し

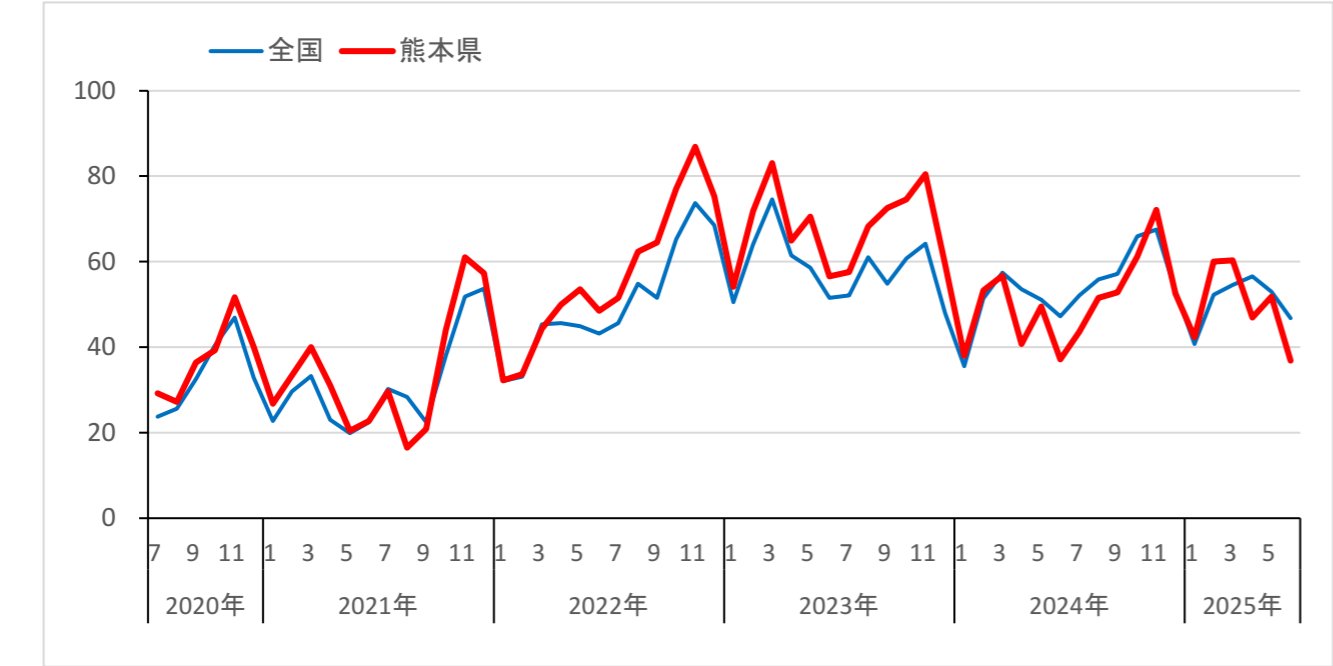


今後9月までの業況の見通しは、全体で「良くなる」と「やや良くなる」の合計は40.0%、「悪くなる」と「やや悪くなる」の合計は26.7%となった。
業種別にみると、行政・協会、集客施設、飲食・物販、その他の4業種で「良くなる」と「やや良くなる」の合計が過半数を占める。

【コメントの抜粋】
●良くなる
町の特産品であるフルーツが旬を迎えることや、町内でのイベントや祭り等が計画されているため。(行政・協会)
夏休み期間(繁忙期)を迎えるため集客増加が見込まれます(集客施設)
●やや良くなる
全国体育大会などのスポーツ大会が開催されるため団体利用が多くなっている。(宿泊施設)
●不変
大きなイベントなどないため(交通・代理店)
●やや悪くなる・悪くなる
「7月に日本で大きな地震が起きる」という予言をきっかけにアジアからのインバウンドが減っているため。(集客施設)
予言でのインバウンドの減少、欠便の為7月～8月中旬までが壊滅的である。(宿泊施設)

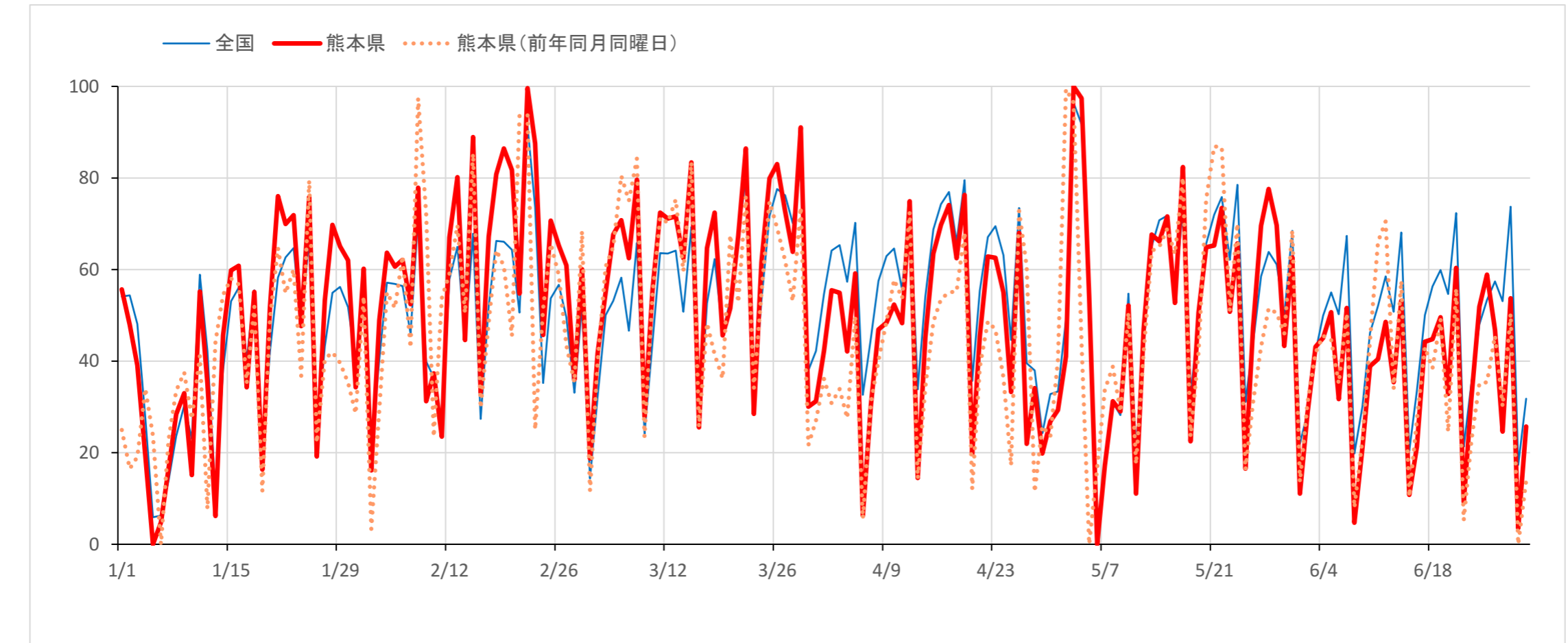
5. 宿泊稼働指数の動向

①月次別(2020年7月～2025年6月)



2025年4月における熊本県の宿泊稼働指数は46.9(前年同月差+6.2pt)、5月は51.9(同+2.4pt)、6月は36.8(同▲0.3pt)となった。
2025年1月から同年5月にかけて5カ月連続で前年同月の指数を上回っており、インバウンドによる観光宿泊需要の増加の影響が見て取れるものの、2025年6月には前年同月を0.3pt下回っている。また、2025年4月から同年6月にかけて3カ月連続で全国の指数を下回った。
地域別では、水俣市、芦北町など水俣・芦北地域で特に指数の低下がみられる。一方、菊池市、合志市では直近3カ月の宿泊稼働指数がいずれも60を上回るなど、菊池地域では指数が高位で推移していた。

②日次別(2025年1月1日～6月30日)



熊本県の宿泊稼働指数を日次別(原数値)でみると、2025年4月1日から同年6月30日の91日間のうち57日で宿泊稼働指数が前年同日差プラスを記録しており、昨年と比較してやや高位で推移している。4月は平日・土休日ともに前年の指数を上回る日が多かったものの、5月、6月は平日を中心に下回る日が増加した。全国と比較すると、5月は全国との指数の差が小さく、熊本県が上回っている日も多かったが、4月、6月は全国を下回る水準で推移した。
ゴールデンウィークについて、5/3、5/4にそれぞれ100、97.4を記録するなど後半は高い値を示したが、今年は4/29(昭和の日)が火曜日で三連休でないこともあり、前半(4/26、27)は前年差マイナスで推移した。地域別にゴールデンウィーク期間中の指数をみると、八代地域、宇城地域で高くなった。

用語解説

※DI(ディフィージョン・インデックス)
同調査におけるDIは、現在の景況感(現状判断)、現在と比べた3ヶ月後の見通し(先行き判断)に対する5段階の判断に、それぞれ点数を与え、これらの回答区分の構成比(%)を乗じたものである。(良い…+1、やや良い…+0.75、変わらない…+0.5、やや悪い…+0.25、悪い…0)。DIが50を超えた場合、景気が上向いていることを示す。

※宿泊稼働指数
宿泊稼働指数は日次の空室の水準を指数化したもので、(公財)九州経済調査協会が推計・公表。原数値は 0 から 100 の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は100 に、稼働状況が悪い場合は0に近づく。なお、2020 年 4～6月分については、緊急事態宣言による休業が多く発生していたことから、同期間に営業していた施設のみを分析対象としている。
具体的には、以下の式より算出している。

$$100 - \left(\left(\text{当日の空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数} \right) / \left(\text{当日を含む過去730日の最大空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数} \right) * 100 \right)$$

本稿では、①月次別では、日次(原数値)データを7日間周期のデータとみなして要因分解し、曜日要因を除いたものを単純平均したもの、②日次別では原数値を使用している。